

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-206062

(43) 公開日 平成7年(1995)8月8日

(51) Int.Cl.⁶

B 6 5 D 85/10

識別記号

庁内整理番号

0330-3E

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平6-273856

(22) 出願日 平成6年(1994)11月8日

(31) 優先権主張番号 P 4 3 3 8 9 5 4. 6

(32) 優先日 1993年11月15日

(33) 優先権主張国 ドイツ (D E)

(71) 出願人 590003205
 フォッケ・ウント・コンパニー (ゲーエム
 ベーハー・ウント・コンパニー)
 FOCKE & COMPANY (GMB
 H & COMPANY)
 ドイツ連邦共和国、デー - 2810 フェ
 ルデン、シーメンスシュトラッセ 10

(72) 発明者 ハインツ・フォッケ
 ドイツ連邦共和国、デー - 27283 フ
 ェルデン、モールシュトラッセ 64

(74) 代理人 弁理士 鈴江 武彦

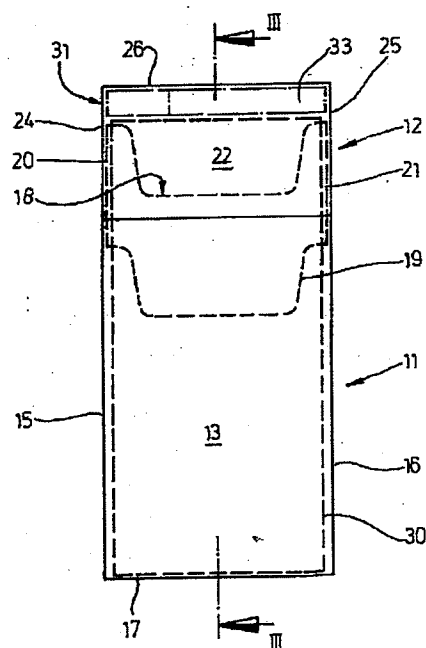
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 紙巻き煙草用蓋付バック

(57) 【要約】

【目的】 ヒンジ蓋付ボックス型の紙巻き煙草用バックに、その新たな利用形態を付加すること。

【構成】 紙巻き煙草の長さはバックの高さまたは長さよりも小さいく、バックを閉じると、横断方向に配置される少なくとも1本の紙巻き煙草または部分煙草を貯留するための凹部(室)が、蓋の内側であって紙巻き煙草のグループまたはブロックの上方に形成される。紙巻き煙草または部分煙草はバック内に一時的に貯留される。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 紙巻き煙草(10)の長さが、紙巻き煙草のバックの高さまたは長さよりも小さく、紙巻き煙草のバックが閉じられたとき、バックを横断する方向に配置される少なくとも1本の紙巻き煙草または部分煙草(33)を貯留するための凹部(室31)が、蓋(12)の内側であって紙巻き煙草のグループ(28)またはブロック(30)の上方に形成される点に特徴を有する、特に、紙巻き煙草のグループ(28)を収容するためのボックス部(11)を備える、蓋(12)の付いた紙巻き煙草用バック。

【請求項2】 紙巻き煙草のグループ(28)の上方にある凹部(室31)が、蓋(12)の全横断面を越えて延在しており、その高さが、紙巻き煙草または部分紙巻き煙草(33)の厚みにはほぼ等しい点に特徴を有する請求項1記載の紙巻き煙草用バック。

【請求項3】 蓋(12)内の凹部(室31)の寸法が、その長手方向において、紙巻き煙草または部分紙巻き煙草(33)の長さとは一致しており、前記紙巻き煙草または部分紙巻き煙草(33)が、蓋の両側壁(24,25)の間でクランプされることができ点に特徴を有する請求項1または2記載の紙巻き煙草用バック。

【請求項4】 下記の(a)-(e)に特徴を有する、ボックス部(11)とボックス部(11)の後部壁(14)と回動自在に連結される蓋(12)とからなり、紙巻き煙草のグループ(28)が、前記ボックス部(11)内に配置され、上部の1つの二次区域によって前記ボックス部(11)から突出する紙巻き煙草のグループ(28)用のヒンジ蓋付きボックス。

(a) 紙巻き煙草のグループ(28)の紙巻き煙草(10)が、その中央部において好ましく分割することができ、各紙巻き煙草(10)それぞれから、別々に使用喫煙することができる2つの部分煙草(33)を得ることが可能である、(b) 紙巻き煙草用バックが閉じられるとき、蓋(12)の内部であって、かつ、紙巻き煙草のグループ(28)の上方に、凹部(室31)が形成される、(c) 蓋が閉じられるとき、凹部(室31)の自由高が一本の紙巻き煙草(10)の直径にはほぼ等しい、(d) 凹部(室31)の長手方向の延在長(蓋の両側壁24,25の間の間隙)が、一本の部分煙草(33)の長さとは等しい、(e) 一本の紙巻き煙草(10)が分割されたとき、部分煙草のうちの一本が、蓋の両側壁(24,25)の間で、それを固定状態にクランプすることによって、前記部分煙草が、蓋(12)の内部において、蓋を横断するか、または斜めの位置に配置されることができ、

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、蓋付の紙巻き煙草用バック、特に、紙巻き煙草のグループ、特に、分割できる紙巻き煙草のグループを収容するためのボックス部を備えるヒンジ蓋付きボックスに関する。

【0002】

【従来の技術】この発明は主として、ヒンジ蓋付きボックス(ヒンジ蓋付きバック)、すなわち、世界中に遍く知れ渡っているタイプの紙巻き煙草用バックの発展形態に関する。このタイプのバックは、従来から、紙巻き煙草のグループが紙製または鋁箔製の内部ブランクに包み込まれ、バック内容物として紙巻き煙草のブロックを形成するように作られる。紙巻き煙草のブロックは、ヒンジ蓋付きボックスのボックス部内に配置される。蓋は、ボックス部の後部壁に回動自在に接続されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】この発明は、これらの、または、これらと類似したバックの新規な構造に関する。特にその狙いとするところは、それらのバックに新たな別の利用法を提供することである。

【0004】この発明の目的は、初めに述べたタイプの紙巻き煙草用バックを、紙巻き煙草の一部を一時的な貯留のために、バック内に一時的に収容されるようにさらに発展させることである。

【0005】

【課題を解決するための手段】この目的を達するために、この発明の紙巻き煙草用バックは、紙巻き煙草の長さが、紙巻き煙草用バックの高さまたは長さよりも小さいので、紙巻き煙草のバックが閉じられたとき、バックを横断する方向に置かれる少なくとも一本の紙巻き煙草または一本の紙巻き煙草を構成する部分タバコを収容するための凹部が、蓋の内側であって、かつ、紙巻き煙草のグループまたはブロックの上方に設けられる点に特徴を有する。

【0006】

【作用】この発明の紙巻き煙草用バックは、したがって、バックの内容物すなわち紙巻き煙草のブロックによって充填されない凹部を備えており、この凹部が、少なくとも一本の紙巻き煙草またはそれよりも相対的に長さの短いその部分煙草を貯留する機能を果たす。

【0007】この発明は、一本の紙巻き煙草を構成する一方の部分タバコが喫煙に使用され、他方の部分煙草が、喫煙に必要なまで、保管される、分割可能な紙巻き煙草の場合に特に有利に利用することができる。そのような紙巻き煙草は、別々に喫煙される2つの部分煙草を形成し、喫煙する場合に真ん中で好ましく分割できるように設計される。この発明の紙巻き煙草バックの場合には、後日使用されるまで貯留される(部分)煙草が、バックの蓋内に形成される凹部に収容される。

【0008】この発明によれば、紙巻き煙草のバックと、紙巻き煙草または部分紙巻き煙草は、貯留される(部分)煙草が蓋内に形成される凹部に適合することができ、一定のクランプ作用を受けて蓋内に固定されるように、互いに寸法を調整される。

【0009】発明のさらなる細部を、図示した紙巻き煙

草用バックと紙巻き煙草の模範実施例とともに以下に説明する。

【0010】

【実施例】図示する模範実施例は、基本的な設計上の特徴に関しては従来と同じである紙巻き煙草10用のヒンジ蓋付きボックスに関する。そのようなヒンジ蓋付きボックスは、(下部)ボックス部11と蓋12からなっている。ボックス部11は、前部壁13、後部壁14、側壁15、16および底部壁17からなっている。ボックス部11内には、カラー前部壁19とカラー側壁20、21を備えるカラー18が配設されている。カラーは、下部副区域によって、ボックス部11に配設されている。紙巻き煙草用バックを閉じた位置では、前記ボックス部から突出する上部副区域は、蓋12によって包囲されている。

【0011】蓋12は、蓋前部壁22、蓋後部壁23、蓋の両側壁24、25および蓋上部壁26とで構成される。蓋後部壁23は、関節線27を介して、ボックス部11の後部壁14に回転自在に接続されている。閉じた位置(図1、3参照)では、図示の態様で設計された蓋12が、ボックス部11から突出して、バックの内容物およびカラー18の上部を包囲する。

【0012】バックの内容物は、紙巻き煙草10のグループすなわち紙巻き煙草のグループ28で構成される。紙巻き煙草のグループ28は、紙製または錫箔製の内部包装材29によって四方を包囲される。紙巻き煙草のブロック30がこうして得られる。

【0013】紙巻き煙草のブロック30は、紙巻き煙草のバックまたはボックス部11の断面を完全に充填する。従来、このタイプの紙巻き煙草のバックは、紙巻き煙草10が3列の配置をなすように調整されており、中央列の紙巻き煙草10が、外側の2列の紙巻き煙草10とは、ずれた態様で配置される。

【0014】紙巻き煙草10は、紙巻き煙草のブロック30と一致する長さを有するので、紙巻き煙草のブロック30の高さは、紙巻き煙草用バックまたはその内部の高さよりも小さい。紙巻き煙草用バックが閉じられると、紙巻き煙草用バックの上部区域、すなわち蓋12内に凹部または室31を発生することとなる。室31は、したがって、紙巻き煙草のブロック30の上端部壁32と蓋12の両壁によって規定される。

【0015】室31は、少なくとも一本の紙巻き煙草または部分煙草33を(一時的に)収容するように機能する。

【0016】紙巻き煙草または部分煙草33は、その軸線が紙巻き煙草のグループ28の紙巻き煙草10と直交するように室21内に配置される。図示の模範実施例においては、室21は、その高さが紙巻き煙草または部分煙草33の直径とほぼ等しいように、その寸法が決められる。室31の長さ、すなわち、蓋の一方の側壁24から他方の側壁25までの距離は、今の場合、収容の対象である紙巻き煙草または部分煙草33の長さに等しい。部分煙草33が蓋の

両側壁24、25の内側と接して支持されるように、一定のクランプ作用の下に室内に保持されるように、各寸法が互いに調整されることが好ましい。このように構成されれば、部分煙草33は、紙巻き煙草用バックが開くと蓋12内に導入され、紙巻き煙草用バックが開くときと同様に、再び室31内に移動することができる。

【0017】紙巻き煙草10は、分割- 今の場合中央で- 可能なように、「複式煙草」として設計され、結果として2つの部分煙草33が発生する。この目的で、紙巻き煙草10は、その両端部に、それぞれ1つの従来型のフィルター部材を備えることができる。紙巻き煙草の巻き紙35は、紙巻き煙草10の全長に亘って延在する。この紙巻き煙草10を分割すると、それぞれがフィルター部材34を有する独立して使用される2つの部分煙草34が生じる。巻き紙35は、分割を容易に行うために、紙巻き煙草10の長手方向中央部に、脆弱線、特にミシン目36を備えている。紙巻き煙草10は設計を異ならせてもよく、例えば、2つの部分煙草33を形成するために、中央部に2倍の長さのフィルター部材を備えてもよい。

【0018】模範実施例の場合は、紙巻き煙草のバックとその内容物は下記の寸法を具備することができる。すなわち、紙巻き煙草のバック自身は、幅56mm、深さ23mm、高さ121mm、紙巻き煙草10の直径8mm。紙巻き煙草10の長さは121mmに固定。これは室31の高さが約8mm

(正味の内側寸法)であることを意味する。上記寸法の紙巻き煙草10が、中央部で分割されるときは、この室31に貯留される煙草すなわち部分煙草33は、56mmの長さを有する。この寸法はバックの幅に一致するので、バック材料の厚みを考慮に入れる結果として、部分煙草33は、僅かながらクランプ作用を受けて蓋12内に保持される。

【0019】このヒンジ蓋付きボックスは、その寸法を、紙巻き煙草10すなわち部分紙巻き煙草33の大きさと合わせて設計調整することができ、例えば、紙巻き煙草すなわち部分紙巻き煙草が、蓋の前部壁22と蓋の後部壁23と平行する正確な横断方向に配置されるのではなく、蓋12の一角または内縁部から、これと向き合う蓋の内縁部に亘って斜めに配置されることができる。

【0020】

【発明の効果】紙巻き煙草用のバックが閉じられたとき、バックを横断する方向に置かれる少なくとも一本の紙巻き煙草または一本の紙巻き煙草を構成する部分タバコを収容するための凹部が、蓋の内側であって、かつ、紙巻き煙草のグループまたはブロックの上方に設けられるこの発明によって、ヒンジ蓋付きボックス(ヒンジ蓋付きバック)に新たな別の利用法が付加されることとなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】ヒンジ蓋付ボックス型の紙巻き煙草用バックの正面図。

【図2】開いた位置にある図1の紙巻き煙草用バックの

極端な拡大平面図。

【図3】図1のIII-III線に沿う垂直断面における紙巻き煙草用バックの上部区域の拡大図。

【図4】分割可能な紙巻き煙草の側面図。

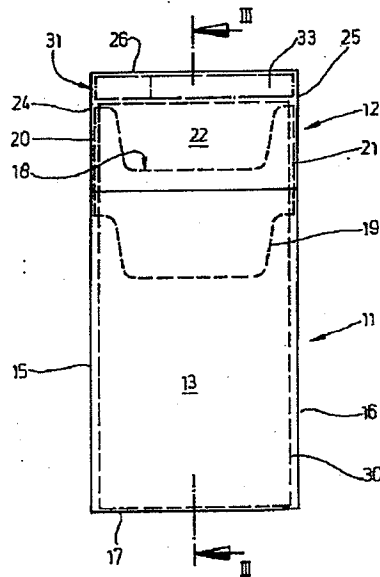
【図5】2つの部分煙草を備える図4の分割可能な紙巻き煙草の斜視図。

【符号の説明】

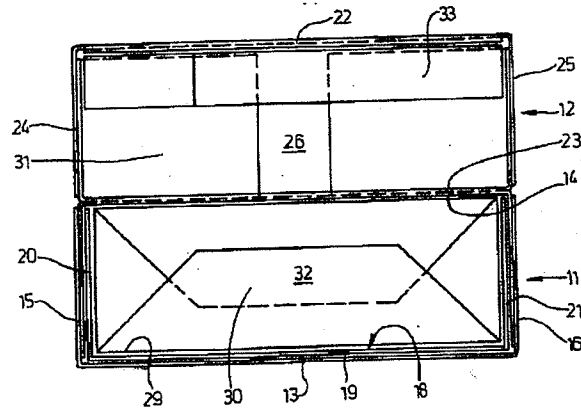
10…紙巻き煙草, 11…ボックス部, 12…蓋, 13*

*…前壁部, 14…後部壁, 15, 16…側壁, 17…底部壁, 18…カラー, 19…カラー前部壁, 20, 21…カラー側壁, 22…蓋の前部壁, 24, 25…蓋の側壁, 26…蓋の上部壁, 27…関節線, 28…紙巻き煙草のグループ, 30…紙巻き煙草ブロック, 31…凹部(室), 34…フィルター部材, 33…部分煙草, 35…巻き紙,

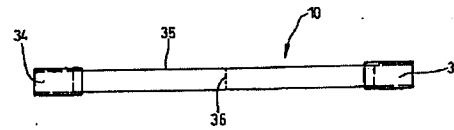
【図1】



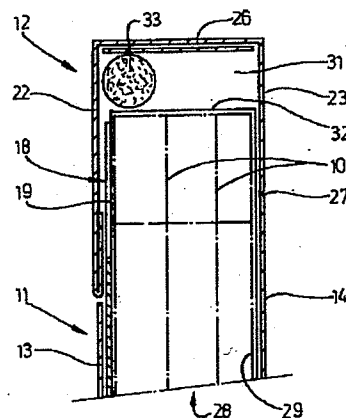
【図2】



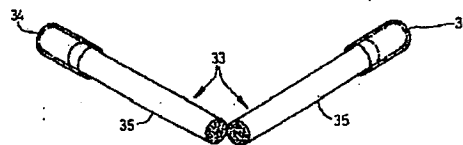
【図4】



【図3】



【図5】



フロントページの続き

(72)発明者 ヘンリー・ブーゼ
ドイツ連邦共和国、デー - 27374 フ
ィッセルヘーフェーデ、ドリーセル・ヌン
マー 8